

日本泌尿器科学会第 95 回宮崎地方会

第 47 回宮崎大学医学部泌尿器科学教室開講記念会

プログラム・抄録集

日 時 令和 6 年 1 月 20 日 (土) 午後 1 時 30 分～

会 場 ホテル JAL シティ宮崎
2 階「オルソ」
宮崎市橘通西 4-2-30 (TEL 0985-25-2580)

参加費 3,000 円

会 長 賀本敏行 (宮崎大学医学部泌尿器科 教授)

日本泌尿器科学会第 95 回宮崎地方会事務局

宮崎大学医学部泌尿器科

〒889-1601 宮崎市清武町木原 5200

TEL 0985-85-2968

FAX 0985-85-6958

～プログラム～

13:30～14:19 一般演題(1)

座長 向井尚一郎(宮崎大学)

- 1 宮崎大学医学部泌尿器科教室における2023年の臨床統計
○近藤 誠 大橋かすみ 久嶋 嵐 伊藤歌織 村嶋隆哉 中原 梢 藤井将人
永井崇敬 高森大樹 西本紘嗣郎 上村敏雄 澤田篤郎 向井尚一郎
賀本敏行(宮崎大学)
山崎浩司(宮崎医療センター病院)
中原智子(湘南美容クリニック宮崎院)
宮元耀嗣(県立日南病院)
川添智浩(古賀総合病院)
- 2 術前診断が困難だった副腎オンコサイトーマの1例
○石川裕隆 大塚 武 山下康洋(宮崎県立延岡病院)
- 3 Pembrolizumab + Lenvatinib 療法中にAEを発症し難渋した腎細胞癌の1例
○慶田喜文 榎木伴直 宮内大知 山崎丈嗣(独立行政法人都城医療センター)
- 4 高齢女性に発症した転移性腎原発性神経内分泌腫瘍の一例
○田中 聡 穴見俊樹 倉橋竜磨 元島崇信 村上洋嗣 矢津田旬二 神波大己
(熊本大学)
- 5 尿管癌に対してPembrolizumabが著効し膀胱回腸瘻を来した一例
○佐藤嘉晃 岩淵直人(中津市民病院)
- 6 尿管結核の1例
○鮫島 立 木下史生 堀 幹史 黒岩顕太郎(宮崎県立宮崎病院)
- 7 小腸内細菌異常増殖症(SIBO)との合併と考えられる間質性膀胱炎の一例
○中原 梢 村嶋隆哉 永井崇敬 高森大樹 澤田篤郎 向井尚一郎 賀本敏行
(宮崎大学)

14:19～14:54 一般演題(2)

座長 黒岩顕太郎(宮崎県立宮崎病院)

- 8 Solitary fibrous tumor of the prostate 巨大前立腺間質系腫瘍の1例
○新村真司 鎌先晋平 伊波 恵 池原 在 松元 貢 新村友季子(新村病院)
- 9 精巣腫瘍との鑑別が困難であった腺腫様腫瘍の一例
○川添智浩 三宅那央 上別府豊治(古賀総合病院)
田中弘之(同 病理診断科)
- 10 精索原発のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例
○藤崎友基也 月野浩昌 藤田直子(潤和会記念病院)
石原 明(同 病理診断科)
- 11 鼠径部、陰囊より発生した肉腫の4例
○古賀俊暉 根岸孝仁 古林伸紀 原口裕介 中村元信
(九州がんセンター泌尿器・後腹膜腫瘍科)
薛宇 孝(同 整形外科)
- 12 陰茎癌に対し陰茎全摘術を施行した2例
○白川達也 長野正史(藤元総合病院)
澤田篤郎 植野 堯 上村敏雄 向井尚一郎 賀本敏行(宮崎大学)

— Coffee Break —

15:20～16:09 一般演題(3)

座長 澤田 篤郎(宮崎大学)

- 13 馬蹄腎に合併した腎盂癌に対してロボット支援腹腔鏡下腎尿管全摘除術を施行した1例
○柳井建二 児島偉人 古森広輝 永富裕子 安達拓未 筒井顕郎
(JCHO九州病院)
- 14 浸潤性尿管癌の診断における尿管鏡下生検の臨床的意義に関する考察
○木田和貴 藤本雄史 和田大和 城戸啓伍 小林裕貴 白石航一 阿部立郎
田中祥子 相島真奈美 眞崎拓朗 志賀健一郎 宮崎 薫 武井実根雄
内藤誠二 横溝 晃(原三信病院)
- 15 当科における腎盂尿管癌に対する鏡視下根治的腎尿管摘除術の臨床検討
○佐藤俊介 酒井康之 田口圭介 前田俊浩(王子総合病院)
- 16 下部尿管癌にたいする後腹膜鏡下腎尿管全摘出術、我々の工夫
～特に、尿管口処理の手技、について～
○米澤智一 森 勝久(小林市立病院)
- 17 膀胱内に5cmを超える筋層非浸潤性膀胱癌に対しTURBTを施行後に肺転移を来した2例
○志賀健一郎 内藤誠二 横溝 晃(原三信病院)
- 18 転移性膀胱癌に対するペムプロリズマブ療法におけるClostridium butyricum
(宮入菌)製剤併用による予後延長効果の検討
○有馬純矢 吉野裕史 斎藤朗毅 川原一朗 坂口 大 見附明彦 松下良介
鑑野秀一 榎田英樹(鹿児島大学)
- 19 小児巨大水腎症晩期再発に対してlaparoscopic dismembered flap pyeloplastyを施行した1例
○井手迫俊彦 才田幸一郎 富永充彦 川越真理(済生会川内病院)
斎藤朗毅(鹿児島大学)

16:09～16:58 一般演題(4)

座長 月野 浩昌(潤和会記念病院)

- 20 当院における緩和医療の実践
○山崎浩司 高橋稔之(宮崎医療センター病院)
- 21 当院における腎結石治療の臨床的検討
○深谷友祐 中西亮太 井内俊輔 金子 新 藤崎雅史 中村晃二
(修腎会 藤崎病院)
- 22 ナトリウム/グルコース共輸送体2(sodium/glucose cotransporter 2; SGLT2)
阻害薬によって腎結石が消失した1例
○宮元耀嗣 鬼塚千衣(宮崎県立日南病院)
- 23 尿管嵌頓結石に対するdisposableな軟性尿管鏡を用いた経皮的順行性碎石術の有効性
について
○小島慎平 岩本秀安 小林隆彦(野崎東病院)
- 24 結石性腎盂腎炎に伴う敗血症性ショックにおけるヒドロコルチゾンの有効性の検討
○小迫太一 大塚 武 石川裕隆 山下康洋(宮崎県立延岡病院)
- 25 当院の手術実績並びに経皮的シャント拡張術・血栓除去術(PTA)の現状
○木村友哉 竹原俊幸 前田幸志郎(おがわクリニック)
西 桂子(おおぬきクリニック)
- 26 腹腔鏡仙骨膈固定術後に腹圧性尿失禁に対して尿道スリング術を要した症例の検討
○小堀 豪 荒木博賢 清水浩介 諸井誠司(浜松ろうさい病院)

17:30～18:30 (予定)

宮崎泌尿器セミナー (武田薬品工業株式会社 共催)

座長 宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座 泌尿器科学分野
教授 賀本 敏行 先生

「前立腺癌治療後の QOL 改善を目指して」

東北医科薬科大学医学部 泌尿器科学
教授 海法 康裕 先生



宮崎大学
UNIVERSITY OF MIYAZAKI

DEPARTMENT OF UROLOGY
FACULTY OF MEDICINE
UNIVERSITY OF MIYAZAKI
5200 KIHARA, KIYOTAKE,
MIYAZAKI 889-1692, JAPAN
TEL : + 81- 985- 85- 2968
FAX : + 81- 985- 85- 6958

〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200 宮崎大学医学部 発達泌尿生殖医学講座 泌尿器科学分野

< 演者変更のお知らせ >

※一般演題 (1) 演題番号 1 の演者が変更になりました。

- 1 宮崎大学医学部泌尿器科教室における 2023 年の臨床統計
○近藤誠 ⇒久嶋嵐 大橋かすみ 近藤誠 伊藤歌織 村嶋隆哉 中原梢 藤井将人
永井崇敬 高森大樹 西本紘嗣郎 上村敏雄 澤田篤郎 向井尚一郎 賀本敏行 (宮崎大学)
山崎浩司 (宮崎医療センター病院)
中原智子 (湘南美容クリニック宮崎院)
宮元耀嗣 (県立日南病院)
川添智浩 (古賀総合病院)

2023 年当院外来における新患者数、年齢分布、疾患別割合について検討し報告する。また、入院患者数、疾患別割合、年齢分布、手術件数についても例年との比較、検討を行う。



宮崎大学

UNIVERSITY OF MIYAZAKI

DEPARTMENT OF UROLOGY
FACULTY OF MEDICINE
UNIVERSITY OF MIYAZAKI
5200 KIHARA, KIYOTAKE,
MIYAZAKI 889-1692, JAPAN
TEL : + 81- 985- 85- 2968
FAX : + 81- 985- 85- 6958

〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200 宮崎大学医学部 発達泌尿生殖医学講座 泌尿器科学分野

<演題名・抄録一部変更のお知らせ>

※一般演題 (2) 演題番号 9 の演題名および抄録が一部変更になりました。

- 9 精巣腫瘍との鑑別が困難であった腺腫様腫瘍 ⇒ 繊維性偽腫瘍の一例
○川添智浩 三宅那央 上別府豊治 (古賀総合病院)
田中弘之 (同 病理診断科)

症例は 66 歳男性。X 年 4 月より左陰嚢腫脹を自覚。エコーでは陰嚢水腫の所見であり、経過観察とした。6 月に左陰嚢腫脹の増悪があり陰嚢穿刺施行したところ、黄色透明な 150ml の排液あり。3 日後に再度左陰嚢腫脹の増悪したため受診。エコーで液体貯留認めため穿刺を行い、黄色透明な 80ml の排液あり。細胞診を提出したが、陰性であった。8 月の再診時、左陰嚢腫脹は再度増悪しており、エコーでは蜂巢状に液体貯留を伴う多胞性腫瘍を認めた。穿刺したが、少量の淡血清の排液しか引けず、細胞診提出したところ、悪性リンパ腫を疑う細胞を認めた。MRI で左陰嚢内に 72mm×59mm の T2 高信号、T1 低信号の腫瘤を認め、精巣は圧排されていた。悪性腫瘍の可能性を考え、9 月に左高位精巣摘除術を施行。結果は、腺腫様腫瘍 ⇒ 繊維性偽腫瘍であった。

今回、精巣腫瘍との鑑別が困難であった腺腫様腫瘍 ⇒ 繊維性偽腫瘍を経験したので、文献的考察を加えて報告する。



< 欠題のお知らせ >

※一般演題 (3) 演題番号 13 は取り下げになりました。

- 13 馬蹄腎に合併した腎盂癌に対してロボット支援腹腔鏡下腎尿管全摘除術を施行した 1 例
○柳井建二 児島偉人 古森広輝 永富裕子 安達拓未 筒井顕郎
(JCHO 九州病院)

馬蹄腎に合併した腎盂癌に対してロボット支援腹腔鏡下腎尿管全摘除術を施行した症例を経験したため報告する。症例は 81 歳男性。肉眼的血尿、尿細胞診 ClassⅢを認め当科紹介となった。CT で右腎背側に造影効果不良の低吸収域を認め、同部は MRI でも悪性腫瘍を疑う所見であった。右分腎尿細胞診より ClassⅤが検出された。臨床的に右腎盂癌の診断とし、ロボット支援腹腔鏡下腎尿管全摘除術を施行した。峡部離断は ICG 静注やエコードップラーにて血流がないことを確認、Monopolar scissors にて離断、断端を Bipolar forceps にて凝固止血、明らかな出血や尿路の開放を認めなかった。下部尿管処理の前に一旦ロールアウト、膀胱側に再ターゲティング行った。病理結果は Urothelial carcinoma, pT4, High grade であり現在術後補助化学療法施行中である。